

先輩指導主事からのメッセージ

所属 教育委員会事務局 特別支援教育課

職名 主任指導主事兼主幹（指導担当）

氏名 小俵 千智



特別支援教育の充実に向けて、児童生徒、教員、保護者の願いを施策に！！

みなさんは、指導主事がどのような仕事をしているか知っていますか？

当時、中学校の通常の学級の担任だった私は、従来の生徒指導では解決できない、対人関係やコミュニケーションに課題が見られる生徒への指導や支援の手立てを学ぶために、障害児教育にかかる教員長期研修派遣事業に応募しました。大学での座学と実践から、学校における指導・支援の充実には、管理職を中心とした校内支援体制が重要ではないか、卒業後の進路や就労にあたっては、関係機関との連携やご理解いただける支援者への引継ぎがキーではないかと考えるようになりました。このことから、「こうあったらいいなあ」を叶えるために、指導主事試験を受験することにしたのです。

特別支援教育課指導主事の仕事内容は、二つあります。

一つは、県立特別支援学校の教育内容をはじめ、県内の小・中学校の特別支援学級や通級による指導、通常の学級における特別支援教育の推進に関する指導助言です。具体的には、県立特別支援学校訪問指導、特別支援学級や通級指導教室設置校への訪問、初任者研修での講話等を行います。

もう一つは、特別支援教育の推進にかかる施策の企画立案です。例えば、平成24～25年に、「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」を担当しました。まず、学識経験者、教育、福祉、労働関係者や保護者等による検討委員会を設置し、協議を行っていただくための資料の作成をしたり、意見を取りまとめます。あわせて、教員による作業部会、保護者や関係団体からの意見聴取を20数回実施し、皆さんの特別支援教育への期待と願いをもとに、国の動向も踏まえた計画案を作成します。そして、この案について議論を何度も繰り返し、今後5年間に取り組む施策もまとめ、計画を策定するに至りました。

「こうあったらいいなあ」を施策にしたいと指導主事になって9年目になります。定例教育委員会で議決をいただいた時は、感慨深いものがありました。責任ある仕事ですが、特別支援教育課をはじめ、教育職や行政職の先輩や同僚からご指導やご助言をいただきながら、また、特別支援学校、教育事務所や市町教育委員会担当者等多くの方と連携を図り、一緒に創り上げていくことは苦しくも楽しく、やりがいを感じています。

計画に基づく施策は今年から始まります。実施にあたっては、解決すべき課題も多ありますが、初心を忘れずに、兵庫県の特別支援教育の充実を力尽くしていきたくと思います。ぜひ、みなさんも兵庫の教育のために一緒に働いてみませんか。

これまでの主な配属先

S63.4 中学校教諭 採用

H18.4 義務教育課 指導主事

H21.4 特別支援教育課 指導主事

H26.4 特別支援教育課主任指導主事兼主幹(指導担当)